

第 57 回全国健康保険協会山口支部評議会議事概要

開催日時：令和元年 7 月 11 日（木）14：00～16：00

開催場所：防長苑「白鳳」

出席者：河村評議員、清水評議員、椿評議員、中田評議員、
西生評議員、藤本評議員、吉岡評議員（五十音順）

議 題

- 1 協会けんぽ（医療分）の平成 30 年度決算（見込み）について
- 2 平成 30 年度山口支部事業実績及び令和元年度山口支部事業実績（第 1 四半期）について
- 3 平成 29 年度山口支部医療費分析について

議 事

1. 協会けんぽ（医療分）の平成 30 年度決算（見込み）について
資料に基づき事務局から説明。

《学識経験者》

9 年間黒字が続いている。平成 30 年度は過去最高の黒字幅であったが、ここ数年、大幅な伸びを見せていた加入者数の伸び率が小さくなってきていることから、今後もこの状況が続いていくわけではない。

今回は、保険料率について議論するわけではないが、そういった状況は理解しておく必要がある。

資料 1-1、10 ページ「協会けんぽの後期高齢者支援金の推移」に、「近年、後期高齢者支援金は、総報酬割の拡大により一時的な伸びが抑制されていたが、今後は大幅な増加が見込まれている。」と記載されている。平成 21 年度までは、加入者割であり、標準報酬が比較的低い協会けんぽに不利な面があったが、段階的に総報酬割が導入され、平成 29 年度から全面総報酬割となったことから、協会けんぽにとっては有利な状況になった。しかしながら、資料には「今後大幅な増加が見込まれている。」と記載されている。これについて、詳しく教えていただきたい。

《事務局》

後期高齢者支援金に係る制度については、平成 29 年度から総報酬割になったこともあり、協会に有利な状況にはなりましたが、今後、後期高齢者医療に加える方が増えていくということ、また、一人あたり医療費も今後、さらに上昇すると見込まれており、この 2 点から大幅な増加が見込まれている状況です。

《学識経験者》

現在、在職高齢年金の制度改正について議論されているが、今後、在職中であつても年金が満額支給されることになった場合、年金を受給できる年齢になつても会社を辞めずにそのまま働き続ける方が増えてくる可能性がある。そのような場合も想定して運営していく必要があるのではないか。

《事務局》

一般的に、年齢が高くなれば医療費が上がる傾向にありますが、給与等に関しては年金を受給する年齢になってからも段階的に増えていくような社会的構造にないため、協会の収入が増えた場合であっても、それ以上に支出が増大する可能性も考えられます。

いずれにしても、国が定めた制度に従って運営していくこととなります。

《学識経験者》

パートタイマーの適用拡大について、現在は従業員が 501 人以上の事業所が対象となっているが、今後、小規模事業所にも拡大された場合も想定していく必要があるものと考えている。

《事務局》

平成 29 年 4 月から、労使で合意すれば、従業員が 501 人未満の事業所でも適用されることとなっています。将来受給する年金の額を鑑みても、社会保険に適用された方が有利であることから、国でも社会保険のさらなる適用拡大を検討しているので、今後もそれらの動きを注視していきたいと考えています。

2. 平成 30 年度山口支部事業実績及び令和元年度山口支部事業実績(第 1 四期)について

資料に基づき事務局から説明。

《学識経験者》

特定健診・特定保健指導やその他の事業について、今回の報告にもあったが、行政や民間企業等との協力関係を築いて積極的に動いていることを、報道等を通じて聞いている。

健診については、山口県はがん検診の受診率も低い状況にあるので、各市町のがん検診と協会の特定健診を同時に実施し、それぞれの受診率を向上させるよう取り組んでいることについては、とても良いことだと考えている。

特定保健指導については、保健師の有資格者は県内に一定数いるが、特定保健指導の業務に従事しようとする保健師が少ない。それが、特定保健指導が伸び悩む原因となっているのではないかと考えています。

《事務局》

ご意見いただいた通り、山口支部で雇用している保健指導者の数が少ないため、外部の専門機関に委託して穴埋めをしている状況にあります。

現在より多くの保健師を雇用したいと考えておりますので、評議員の皆様におかれましても、保健指導業務を希望する保健師さんがいらっしゃる場合は、ぜひ紹介いただきたいと考えています。

《被保険者代表》

限度額適用認定証の使用割合について、加入者にとっても一時的な負担を軽減できるという利点がある制度のため、周知を強化すれば、利用者がさらに拡大するのではないかと考えている。

また、この4月に適用が変わり、在籍する職員全員の保険証が切り替わることとなったが、新しい保険証が到着するまでに非常に時間がかかった。

多くの職員から催促される形となり、保険証の代替として年金事務所から発行される資格証明書も発行に多くの時間を要することが分かった。

もう少しスピーディに保険証が手元に届くようなスキームができないかお聞きしたい。

《事務局》

全国的な調査において、限度額適用認定証の認知度が4割程度であることが分かりました。

限度額適用認定証を使用することで、病院窓口での個人負担が減少するほか、病院にとっても医療費の未収等のリスクを低減できるというメリットがあるため、さらなる周知広報に努め、利用率を上げていきたいと考えています。

保険証の発行業務については、日本年金機構が登録処理を行った後に協会けんぽから一括発送することとなっております。4月という最も切り替わりの多

い時期でもあったため、発行事務に時間を要した可能性が考えられますが、できる限り加入者の皆様にご迷惑をおかけしないよう、機会を捉えて協会けんぽの本部へシステムの改善等の意見発信を行っていきたいと考えています。

《被保険者代表》

健診について、受診するのが当たり前と思っていたので、受診率 50%という数字は低いように感じる。この要因について聞かせていただきたい。

《事務局》

健診の受診を面倒だと感じる方が一定数いらっしゃるようです。協会の健診は、被保険者・被扶養者それぞれのメニューをご用意しているのですが、被保険者の場合、勤務時間中の受診が認められていない会社などでは、対象者が受診を面倒に感じて受診しないケースがあるようです。被扶養者も同様で、面倒に感じて受診しないケースが一定数あります。

《被保険者代表》

資格を喪失した後に保険証を使用したことにより返納金が発生するケースについて、保険証に電磁的な機能を付加して、資格喪失していることが医療機関でリアルタイムに分かるようにすれば、返納金の問題が解消されるのではないかと。将来的にそのようなことが計画されているのか聞かせていただきたい。

《事務局》

令和 3 年 3 月から、マイナンバーを活用した資格確認を医療機関で行えるよう国の方で計画されていますが、事業所の届け出が遅れた場合の取扱いや、登録処理を行う日本年金機構と医療機関を繋ぐ中間サーバーの設置等について課題を抱えている状況です。

3 平成 29 年度山口支部医療費分析について

資料に基づき事務局から説明。

《学識経験者》

運動習慣については、萩・長門圏が高く柳井圏が低い状況にあるように、地域によって様々な特色があることが資料を通じて分かる。このような傾向について要因を把握しているのか。

《事務局》

運動習慣については問診でお聞きした内容を統計したもので、健診の受診率

が被保険者で 5 割、被扶養者で 2 割であることから加入者全体の傾向を捉えたものとは言えませんが、分析結果から導き出された課題に対応した事業をこれからも進めていきたいと考えています。

《学識経験者》

- ・問診における運動習慣の有無について、農作業を行っている方など、日常生活の中で身体を動かしている方については、運動習慣がなくても筋力の数値において良い結果が出る傾向にある。
- ・血压リスクにおいては高い数値が出ているので対策を考えていくべき。
- ・入院日数において萩・長門が長い傾向にあるが、これは病院が近くになく、入院後の通院がしにくい環境にあることが要因の一つと考えられる。これから山口県民は、「入院して安心」ではなく、通院しながら治療していく習慣作りが必要であると考えている。

《事務局》

- ・運動習慣について、ご意見のとおり、単純に問診の回答のみではかかれるものではないと考えているので、今後、様々な要因に基づいた分析を行っていききたいと考えています。
- ・血压や代謝等について、全国平均より高いという結果が出たため、対策を立てていきます。
- ・入院日数について、私どもも地域医療構想に参画しているため、会議の場で意見発信していくとともに、加入者の皆様の意識を変えていけるような取り組みについても検討していきたいと考えています。

《学識経験者》

DPC を採用している病院であれば、入院日数が短いほど 1 日あたりの医療費が高く設定されるようになっているため、自ずと入院日数も短くなるのかもしれないが、DPC を採用していない病院においては入院日数が短くならないといった傾向があるのではないか。そういった病院の形態に着目することも有益であると考えられる。

患者の立場からしたら、病院の数が多い、病床数が多いということは、それだけ医療の提供を受けやすい環境であると言えるため決して悪いことではないが、医療費が増大する要因となっているとも考えられることから問題意識を持つ必要がある。

以上